

卯月(第1話) : 「礼節を重んじ、互いによさを認め合う関係をつくろう」

潮の香りと緑豊かな坂町に赴任してまいりました寺岡成希と申します。

校舎から見える穏やかな横浜の海に、日の光がきらきらと反射して、心を躍らせてくれます。私が、真っ先に気に行った風景です。また、毎朝子どもたちを迎えるために正門あたりに立っておりますと、潮の香りがほんのりと漂ってきて、私が生まれ育った大崎下島の大長や御手洗を思い出させてくれます。

そんな自然あふれる横浜小学校で、今年度、力を入れていきたいことが2つあります。

1つ目は、時と場に応じて感じのよい挨拶をする子どもたちを育てることです。

坂町は礼節を重んじ、礼節を基本とする教育を進めておりますので、まず、時と場に応じた感じのよ



い挨拶ができるように指導してまいりたいと思います。毎朝、「家庭」から「学校」モードへ、いいかえると「私」から「公」へと気持ちを切り替えるために、相手が気持ちよくなるあいさつをすることに力を入れていきたいと考えています。そのためには、我々大人が感じの良い挨拶をすることで、子どもたちに、「あいさつをされると気持ちいいなあ」と感じてもらうことが大切だと思います。現在6年生を中心に立ち止まって笑顔で挨拶をする児童が増えてきています。さらに、時と場

に応じて、ろうかですれ違ったり、お客さんに出会ったりしたときに、「こんにちは」と会釈できるようになってほしいと考えています。さらに、地域の方が子どもたちのことをよく気にかけて、お声をかけていただいていますので、下校中に子どもたちから「ただいま(帰りました)」の声がかけられるようになってほしいと思います。

2つ目は、自分の良さや友だちの良さに気付く感性を磨いてほしいということです。日本の子どもたちは、外国の子どもたちに比べて、自己肯定感が低いと言われています。自分の良さが分かっている児童は、「できそうな気がする」と自信を持っていろいろなことに挑戦できます。また、お互いがよさを認め合うことで、落ち着いた行動ができますし、男女問わず仲良くなれます。そのために、教職員が、日常生活において児童の具体的な行動を切り取り、価値の高い行動とはどんな行動なのか気付かせたり、新しい教科道徳において児童に考えさせたりしたいと思います。



これからの社会をたくましく生き抜くためには、相手の意見を尊重しながら、自分の考えを主張し、仲間と協働して新たな価値を創り出していける人材を育てていきたいと思っています。

校長 寺岡 成希